



一般社団法人 日本LD学会
Japan Academy of Learning Disabilities

会 報 第111号

事務局

〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F
TEL 03-6721-6840 URL <http://www.jald.or.jp>



主な記事

- ・巻頭言：大学における授業改善に向けて
- ・第28回大会（東京）開催報告
- ・第28回大会（東京）印象記
- ・＜連続講座＞将来の自立を目指した、ライフステージを通じた支援
- ・＜連続講座＞各地の発達障害者支援センターの取り組みPart II
- ・倫理委員会の取り組みについて
- ・PATIO～実践の最前線～



大学における授業改善に向けて

埼玉大学

名 越 斉 子

大学院修了後の20数年間、相談・療育機関で、心理士として、心身機能の特性に応じた工夫が必要な幼児や小学生の発達支援に携わってきた。大学で教員養成に当たり始めた頃、私の専門性で青年期の定型発達の大学生にできるのか不安だった。しかし、実際には驚くほど同じであった。もちろん内容や方法は異なるが、知的発達の遅れが大きく、音声言語の理解や使用に困難がある子どもであっても、教職を目指す大学生であっても、学習者の理解度やニーズを把握し、学習目標を明確にし、その達成に最も効果的な方法を学習者の特性を考慮して選び、対象者の理解度を確かめ、調整するという指導の本質に変わりはない。

大学の授業の目標や内容は予め決まっているが、履修学生は蓋を開けてみないとわからない。年度によって学生の雰囲気や知識は異なっており、アセスメントしながら計画を修正していく。私は学びのユニバーサルデザイン（UDL）での

授業設計を試行し、目的に合っている場合には、学生がやりやすい方法で課題に取り組めるようにしている。初めは戸惑っている学生も、学びやすいとわかると、自分で調整しながら学ぶようになる。学びやすい分、私もそれなりに高く要求し、知識やスキルを使いこなせる課題では私に合わせてもらっている。多様な学び方に気づき、尊重される経験をした学生は、多様な子どもの学びを保障することのできるインクルーシブ教育を牽引する教員になると期待している。

ご存知のように、大学には特別支援教育がなく、障害のある学生は合理的配慮を申請する。UDLを用いた授業は目的や目標が明確になるので、レベルを下げることなく合理的な補助や代替方法を検討できる。また、どの学生も自分の方法が認められるので、その範囲で対応できるかもしれない。学生の多様性を大切に授業への改善は、障害のある学生の対応の一步となるだろう。